



ヴェーダ

V E D A (ヴェーダとは
サンスクリット語で
“癒し”を意味します。)

地域の皆さん向けの広報誌

基本理念

わたしたちは、地域の中核病院として
皆さんの健康を守るために、質の高い医
療を提供し共に歩みます。

基本方針

- 患者さんの人権と権利の尊重
- がん医療、救急医療、生活習慣病を中心とした医療の推進
- 地域の医療保健機関、介護福祉施設との連携強化並びに地域完結型医療の確立
- 職員の働きやすい職場づくり

ゴールデンウィーク10連休中の診療体制について

小松市民病院では

4月
30
(火・祝)

5月
1
(水・祝)

4月30日・5月1日の2日間、
平日と同じ
外来診療を行います。

5月2日については、
南加賀救急医療センターの診療体制を強化して対応

2019年の4月27日から5月6日までの10日間は、天皇陛下の即位の日及び即位礼正殿の儀の行われる日を休日とする法律の施行に伴い、祝日法により10連休となります。10日間という最長の連休になることから、地域の皆さんに必要な医療機能が十分に提供されるよう、かかりつけ医の先生方と対応策を検討し、万全を期す必要があると考えております。

小松市民病院では、透析療法室については、従来どおり年末年始や連休も変わらず通常通り運営しています。また、救急医療についても、1次救急は、南加賀広域圏事務組合が運営する南加賀急病センター(内科、小児科)が対応し、2次救急は当院の南加賀救急医療センターが24時間体制で臨み、地域の皆さんの生活に支障を来すことのないように対応しています。

今回の10連休においては、4月30日から5月2日の3日間、南加賀急病センターが、日中、休診することとなり、軽症の患者さんが当院の南加賀救急医療センターに集中する可能性、或いは、10日間の間隔が空くことで治療上不安になられる患者さんや治療上弊害が発生する可能性も考えられます。

そこで、小松市民病院では、患者さんの立場に立ち、4月30日と5月1日の両日は、平日と同じ外来診療を行います。5月2日については、南加賀救急医療センターの診療体制を強化して対応することとします。

今回の10連休での対応も含め、今後も地域医療の中核を担う病院として、地域の皆さんの健康を守るために、安心と信頼の医療を提供し、地域の皆さんと共に歩んでまいります。

院長 村上 真也



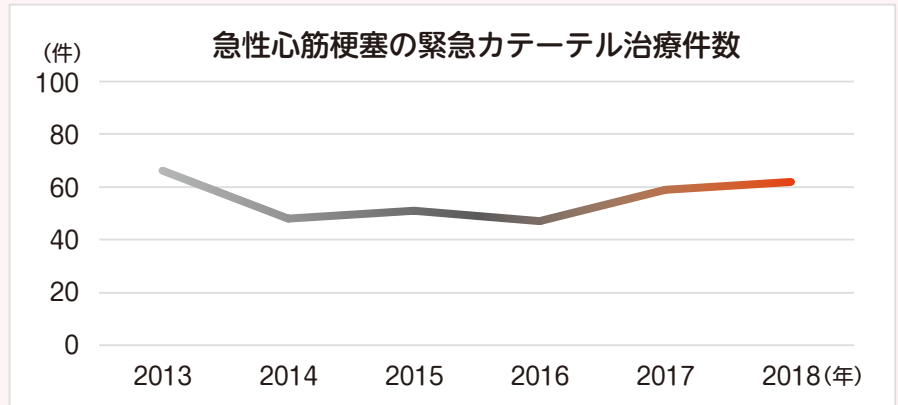
メディカルレポート

循環器内科

循環器内科担当部長

東方利徳

急性心筋梗塞の患者さんは減少していません。



急性心筋梗塞は、心臓に栄養と酸素を補給している冠動脈が急に詰まり、心臓の一部の筋肉が壊死を起こす重篤な疾患で、急死する例も稀ではありません。30分以上続く胸痛が特徴で、救急車で搬送される方も多い一方、高齢者や糖尿病が重い方では自覚症状がはっきりしない例も少なからずみられます。

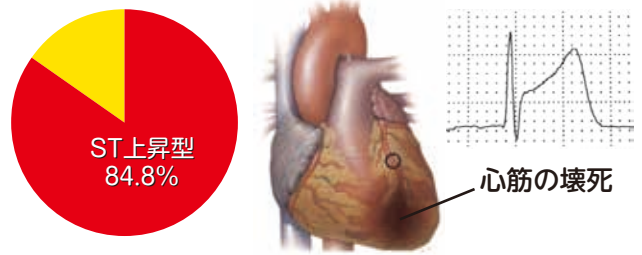
心臓の筋肉(心筋)には再生能力がないため、急性心筋梗塞の第一の治療は、詰まった冠動脈を再び開通させて(再灌流療法)壊死を最小限にとどめることにあります。再開通は早ければ早いほどよく、急性心筋梗塞の治療のゴールデンタイム(心臓のダメージを少なくすることができる時間)は、6時間といわれています。それを過ぎても12時間以内であれば、再開通することで効果があります。

再開通法には、詰まった血栓を薬で溶かす方法と、血管内に細い管(カテーテル)を送り込み、詰まった部位を風船(バルーン)などでふくらませて開通する方法(経皮的冠動脈インターベンションPCI)があります。我が国では後者が普及しており、当院でも心臓カテーテル室開設と同時に導入し、患者さんの救命ならびに早期回復に成果を上げてきました。

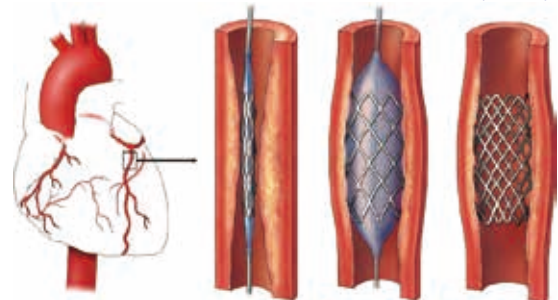
急性心筋梗塞には、心電図の特徴からST上昇型心筋梗塞(STEMI)と非ST上昇型心筋梗塞(NSTEMI)があります。STEMIは冠動脈が完全閉塞している状態であるため、一刻も早い再灌流が望ましく、緊急でPCIを実施する対象となります。



一刻を争うST上昇型急性心筋梗塞(STEMI)が大半を占めています



心臓カテーテル法を用いた冠動脈のバルーン・ステント治療(PCI)

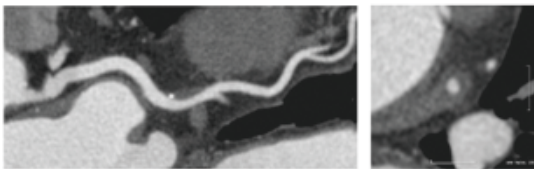




STEMIにおいて、病院到着から再灌流までの所要時間は、door-to-balloon time (DTBT)と呼ばれ、効果的治療が実施できたかの目安とされています。DTBT 90分以内に再灌流を行うと、死亡率が下がる事が様々な研究で確かめられています。当院でも医師、臨床工学技士、看護師のスタッフが自主的にオンコール体制をとり、STEMI患者さんに最善の対応を心がけています。院内の調査では、当院のDTBTは中央値87分、達成率 82%と、一定の目標は達成しているといえますが、更なる短縮のため日々工夫と努力を重ねています。



冠動脈CT検査

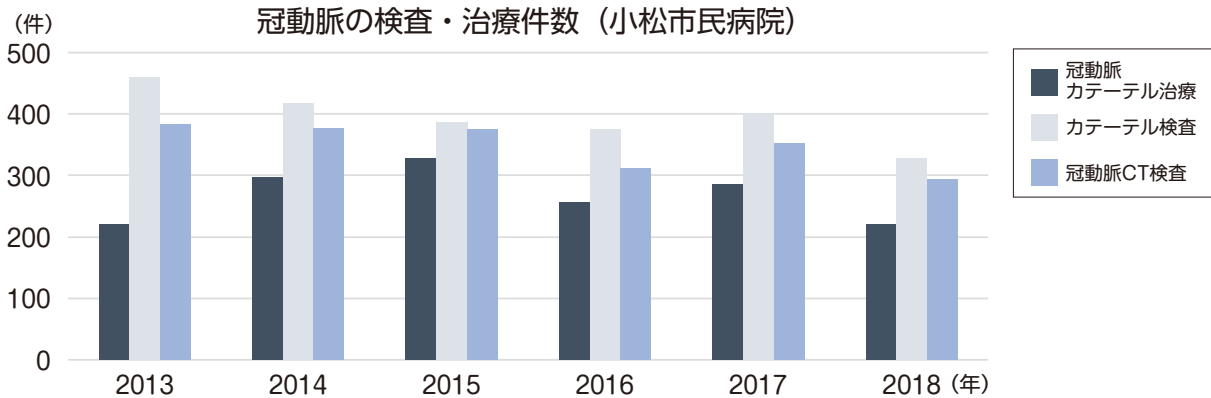


冠動脈の検査には心臓カテーテル法以外にCT検査による冠動脈撮影も普及しています。

本年、当院に最新の心臓血管撮影装置が導入されました。X線被ばくを抑えつつ画質が向上し、より高難度の冠動脈のカテーテル治療に威力を発揮しています。またこれに先立ち、もう一台の血管撮影用の装置にも冠動脈撮影の機能が追加されました。緊急時には2つの検査室で同時に心臓カテーテル検査・治療が可能となり、南加賀医療圏から広く心筋梗塞の患者さんの受け入れが可能な体制を整えています。

現在自覚症状がなくても、高コレステロール血症、高血圧症、糖尿病などのため、冠動脈に狭窄や閉塞を来す危険性の高い方や、心電図に異常が見つかった方には、320列CTを用いた冠動脈の高速撮影もお勧めしています。心臓カテーテルによる検査や治療に先立ち、おおよその病状を知ることが可能です。

冠動脈の検査・治療件数 (小松市民病院)





メディカルレポート
外科

外科担当部長 **塚山正市**

南加賀における小松市民病院外科の役割

① がんに対する外科診療

がんに対する手術症例は年々増加しております(図1)。より精細な手術をおこなうことにより根治性を担保できると考え、低侵襲という利点と相まって可能な限り鏡視下手術を第一選択としております(図2)。表1は主な癌腫における鏡視下手術の割合です。

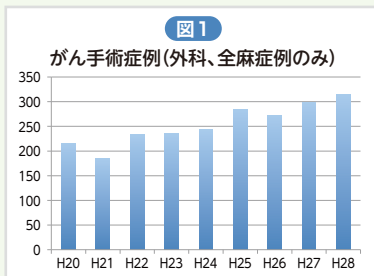


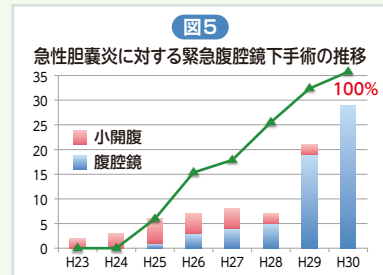
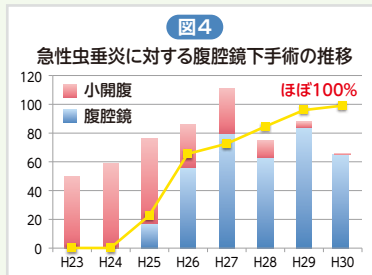
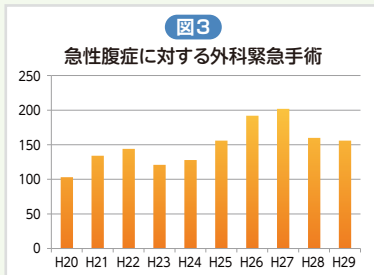
表1
主な癌腫における鏡視下手術の割合

| 癌種 | 鏡視下手術 / 全症例 (%) |
|------|-----------------|
| 胃がん | 47.4% (18/38) |
| 大腸がん | 68.8% (55/80) |
| 肺がん | 80.7% (71/88) |

平成29年症例より算出

② 緊急疾患に対する外科診療

近年の緊急手術症例数の推移を示します(図3)。特に急性虫垂炎と急性胆嚢炎に対しては、緊急での腹腔鏡手術を導入し件数の増加を認めております(図4・5)。緊急で腹腔鏡手術をおこなうためには麻酔科医と手術室スタッフの理解と協力なくしてはありえず、そのような恵まれた施設は県内では多くありません。子供に多い急性虫垂炎では傷がきれいと言われ、急性胆嚢炎では重症化を回避できております。



③ がん患者と外科医との関わりについて

がん患者は常に辛い局面にさらされており、選択に迷う患者に不利益な治療を勧めることはありません。患者の気持ちや目標に寄り添って日々診療をおこなっております。病気を診るだけでなく、病気により失ったものや病気を克服したあとの未来を共有することで治療の質も向上すると思っております。参考としてひとつのデータを提示します(表2)。胃がん患者の術前待機日数のここ数年の変化です。病気に対する不安や苦痛を取り除くために“治療はなるべく早く”を心掛けて診療を行っており、結果として術前待機日数の減少を認めております。また、外科外来に医師事務作業補助者を配置することにより、外来待ち時間の短縮にも努めております。

表2
術前待機日数(初診日~手術日)

| 年度 | H28 | H29 | H30 |
|------|-------|-------|-------|
| 平均日数 | 23.4日 | 23.0日 | 17.3日 |
| 症例数 | 33例 | 30例 | 25例 |
| 中央値 | 21日 | 23.5日 | 17日 |

(胃がん手術症例を集計。ステージ4、重複がん症例を除く。)

働き方改革が叫ばれる昨今において、無駄な時間外労働をおこなうつもりはありませんが、患者家族の気持ちに寄り添った少なからぬオーバーワークは外科医の本来の姿として許していただきたい。



medical
+
report

メディカルレポート

耳鼻咽喉科

耳鼻咽喉科担当部長 西 郡 聡

耳鼻咽喉科は2名の常勤体制にて診療を行っております。

2名とも日本耳鼻咽喉科学会認定 耳鼻咽喉科専門医であり、1名はめまい相談医、補聴器相談医です。定期手術は火曜日の午後、不定期で月曜、水曜日に手術を行っています。主な手術の内訳は、頭頸部腫瘍手術、鼻副鼻腔手術、咽頭・喉頭手術、中耳手術です。また内視鏡下鼻副鼻腔手術についても、多数の症例経験を有しております。その他アレルギー性鼻炎に日帰りのレーザー粘膜焼灼術を行っています。喉頭、下咽頭がんは抗がん剤、放射線治療を中心に行います。



手術外治療としては、突発性難聴、顔面神経麻痺、めまい発作、鼻出血、扁桃周囲膿瘍、喉頭蓋炎、咽喉頭の急性炎症などの急性期疾患の入院治療についても対応いたします。

花粉症に対しては新しい取り組みとして舌下免疫療法を行っています。

また、乳幼児・小児の難聴や言語発達の遅れに対しABR検査・COR検査で聴力を測定しその結果に基づいて言語聴覚士による言語聴覚訓練を行っています。



重症のめまい患者さんの中には脳幹梗塞、小脳梗塞などの中枢性疾患の場合があり積極的に頭部MRI検査を行っています。頭位めまい症にはめまい体操などのリハビリを行います。嚥下障害には嚥下内視鏡検査を行い言語聴覚士とともに嚥下リハビリを行います。

当院では患者さん一人ひとりしっかりと向き合い、診断の結果や治療の選択肢などすべて丁寧にお伝えするインフォームドコンセントを大切にしています。医師と患者さんとの信頼関係をベースに、納得いただける治療を目指します。



南加賀地区の中核病院である小松市民病院。当院小児科も、南加賀一帯のこども医療の最後の砦を自負しています。南加賀の子供がいつでも笑顔でいられるようにできる限りの医療を提供したいというのが当院小児科医の総意です。子供の苦痛、そしてそれに伴うご家族の苦痛を取り除くためなら疾患の垣根を作らず選別せず、当科でできることはベストを尽くしていくという考えのもと医療にあたっています。



小児科外来は壁紙もかわいく、子供の目を引くおもちゃや絵本が並んでいます

さて、市民病院にはどういうときに受診すればいいのでしょうか? 「すごく病気が重いとき」と考えていらっしゃる方が多いのではないのでしょうか? もちろんかかりつけ医の医師からそのように言われ紹介される方もいらっしゃいますが、重くなくてもかかりつけ医の先生にご相談の上、診察を受けたいとこちらに紹介していただくことは可能です。総合病院に来ることで少しためらいがあるのかもしれませんが写真のように小児科はお子さんに配慮した作りになっておりおもちゃや絵本もあるので、中には帰りたくないと言き出す子もいるくらいです(笑)ドクターのキャラクターも少しも堅苦しくなくいつも子供と笑い

あっているような診察室です。「先生になら話すと言っています」とまるで金八先生のような役を仰せつかることもあります。身に余る光栄で医師をやってよかったと思う瞬間の一つです。あと何歳までが小児科なんですか?と聞かれることがあります。小児科受診は生まれてから中学3年生までのお子さんが対象ですが、大人になってからもそのまま当科に通院することは何の問題もありません。



もちろん先に述べたように南加賀の最後の砦ですので重症患者さんを目の前にするとがらりと雰囲気が変わります。我々は命を救うための医療を提供することができ、当院での医療に限界があれば迅速に判断してさらなる高度医療を提供する大学病院等に搬送することもできるのです。

いずれにしても子供に笑顔を取り戻したいという思いはご家族と同じものです。子供だけでなく家族が幸せになるような医療を様々な側面から提供していきます。さらに、医療を提供といいましたがこと小児科に関しては病気だけに限らず全てのことに對して子供たちと向き合いたいと考えています。いじめやゲームのし過ぎ、兄弟喧嘩の相談にまで応じるのが小児科医なのです。いつでも受診をお待ちしています。



入院病棟にはプレイルームがあり回復傾向にある子供たちが遊ぶことができます



病棟からはこんな気持ちのいい景色を眺めることができます。飛行機の離着陸を真近に見れるのも小松市民の特権ですね(笑)



「タバコ」と「歯周病」

2020年 東京都で2回目のオリンピックが開催されます。

東京ではその準備で大変な建造ラッシュが続いています。そこで問題になっているのが禁煙、分煙など先進国基準を普及させることです。米国などでは飲食店などで分煙が徹底されており禁煙エリアも広がっています。しかし日本での普及率は、まだ曖昧です。

では、なぜタバコには問題があるのでしょうか。

15世紀にコロンブスが新大陸を発見した際、先住民から手に入れたタバコは世界中に広がりました。今から約400年前に日本にも輸入され葉タバコが生産されるようになりました。タバコによる税収は多く日本でも専売公社が独占してタバコを製造しました。しかし健康面ではいろいろと問題がありました。今日では日本たばこ産業(JT)が受け継いでいます。

一番の問題点は、財源としての税収より、タバコによる健康面の副作用から医療費が高騰する国民皆保険のマイナス面を引くと大きな利益が得られなくなったことです。

では栄養という面で入り口となる口の中の問題を考えましょう。

タバコと歯周病（歯槽のうろう症、歯肉炎）についてです。

タバコ煙には7,000種以上の異なる化学成分が含まれており、ニコチン、フェノール、ニトロソアミン、重金属、化学発がん物質などが知られています。特にニコチンやタールが問題です。



最近では、電子タバコ（加熱式タバコ）も販売されましたが、ニコチンを含むことは同様で安全性の確立も実証されてはいません。

歯周病は、歯を支える歯周組織（歯肉、歯槽骨、歯根膜、セメント質）に発生する疾患で、最初は細菌由来の「歯肉炎」から歯槽骨を吸収して「歯周炎」へと進行します。歯周病は、成人が歯を失う大きな原因のひとつです。そして発生や進行には免疫機能の低下や環境因子として生活習慣が関与してきます。喫煙はその中でも最大の危険因子になります。喫煙によって生じる歯肉の微小循環障害による栄養補給の減少、局所の免疫機能の低下、ニコチン曝露による歯と歯槽骨の結合力の低下などの歯周組織の修復能力の障害は、歯周病に対する歯科治療の効果も著しく低下させます。

その結果生じる「歯の喪失」により咀嚼力が低下します。つまりは、お煎餅やお肉など脳への刺激である食感を感じられなくなり、食べるのが苦痛になります。軟らかい物だけの食事は、脳への刺激が少なくなると将来的に認知症の誘因になるとも言われています。8020の「80歳でも20本以上の歯で噛める。」には健康寿命を延ばす意味があります。そのためにもタバコによる歯周病の影響を真剣に考えてみましょう。

（歯科口腔外科 田中真也 記）

小松市民病院の 周産期センターで 安心して笑って お産をしませんか!!



当院周産期センターの特徴は？

- 総合病院であり2人の産婦人科医師と4人の小児科医師、3人の麻酔科医師が常勤しております。また、総合病院であるからこそ、いろいろな合併症をとまなうお産が安心してできます。もちろん、普通の正常なお産もできます。
- 1年365日24時間、助産師が常勤しています。
- お産のときは、助産師が付き添い呼吸法を一緒に行い一緒にお産をするスタイルをとっています。
- 出産時の立ち会いは、ご家族ならどなたでもOKです。(お子様もOKです)
- 24時間助産師がいますので、おっぱいのトラブルや育児のお悩み相談も承っています。



- はじめての授乳の時は、赤ちゃんの抱き方をはじめおっぱいのくわえさせ方などゆっくり丁寧に説明いたします。
- 赤ちゃんは基本的に新生児室にいます。ご希望であれば、産後お疲れのときは一晩助産師が授乳をいたします。ゆっくりとお休みください。また、ご希望時は赤ちゃんと一緒に部屋でお過ごしください。
- 入院中は、個人に応じてきめ細やかな説明をいたします。ちょっとしたことでもお気軽にご相談ください。
- 不妊から妊娠、出産、産後、育児、更年期へと女性のライフスタイルに応じて個別相談もお受けいたします。
- 和痛分娩もおこなっております。ご希望がある場合はいつでもご相談ください。



編・集・後・記

インフルエンザが猛威を振るっていますが、自分でできる対策として、手洗い、うがい、そしてマスクの着用があります。ぜひ、日ごろから、自分の身体に目を向け、ひと工夫を生活に取り入れながら、健康維持に努めていきましょう。 (山本)



国民健康保険 小松市民病院

〒923-8560 石川県小松市向本折町ホ60
TEL(0761)22-7111(代) FAX(0761)21-7155
URL <http://www.hosp.komatsu.ishikawa.jp/>
E-mail cbsomu@city.komatsu.ishikawa.jp